
旧川上小学校

山崎製パン横浜工場の前、コスモ薬局の角から小道を入ったところ、現在、瑞穂神社がある場所に旧川上小学校があった。

旧川上小学校は明治初年ごろの学制頒布に伴い柏岡・増威両学舎が設けられたのが、そのルーツである。

その後幾多の変遷を経て明治36年、川上村全域を学区として尋常川上小学校となり戦後の昭和22年横浜市立川上小学校となったものである。

さらに、この地域の発展に伴い子校を次々に開校させ本体の川上小学校も創立80周年を機に校舎を秋葉町に移転し旧地における歴史に幕を閉じたのである。

だからといって川上小学校が廃校になったわけではなく新天地で、その歴史は脈々と受け継がれているのである。

私ミスターKが、くだんの、旧川上小学校に入学したのが昭和25年、卒業が昭和31年であった。旧校舎が廃されたとはいえミスターKは、れっきとした川上小学校OBであることに何ら変わりがあるわけではない。

しばし、当時の思い出などを紹介する。

先に述べたように、旧川上小学校の学区は、いわゆる旧川上村全域（現在は通称川上地区といっている）というとても広く広いものであった。

平戸の奥や品濃の奥あるいは、舞岡の奥から本校に通学する児童は、雨の日も雪の日も片道1時間を超える難儀なものであった。

そのため、一部の低学年は分校に通っていた。

すなわち、平戸（一部）品濃の1～2年生は平戸町（現IKビルの辺り）にあった北部分校、同様に、舞岡（現長泉寺辺り）にあった南部分校に通い3年生からは否応なしに本校に通うことになっていた。

私ミスターKの時代には1年生の時だけ北部分校で2年生からは本校通いになった。

可哀そうなのは川上町の児童で品濃の奥と地理的に同様な事情であったにも拘らず1年生から本校通いであった。それはたぶん北部分校の狭い粗末な校舎事情によるもので気の毒ではあったが致し方なかったの



旧・川上小学校(柏尾町)

であった。

そのためか、北部分校に通った同級生に知り合いが多いが川上町の同級生には、いまだ知り合いが少ない一つの理由でもある。

本校は木造2階建の主校舎と裏に平屋（一部2階建）の従校舎があった。当時の学級数は1学年あたり3組で合計18クラス。1クラスあたり児童数が約50人だったので児童数は合計900人位だったと思う。

校歌の一部に「川上健児800人（ど）…」という歌詞があったので長い間、児童数700～900人くらいで推移していたものと思われる。

この校歌は秋葉に移ってからは新しい校歌に変わったようである。

主校舎前の校庭の傍らに「二宮金次郎」の銅像が建っていた。例の薪を背負い本を読みながら歩いている金次郎少年の姿である。

当時はこの小学校にも、この銅像が建っていた。今はどうか知らないが金次郎少年は当時の子供達にとってのスーパーヒーローだったのである。

この銅像は秋葉の新校舎に移され、今も塀の隙間から、かいま見るこ

とができる。

他校の事情は、よく知らないがミスターK、本校に移った2年生から卒業する6年生までクラスの編成変えがなく5年間同じ仲間と一緒に過ごした。

担任の先生も3年生から6年生まで変わらなかったのもとまりがよく今でも隔年に一度くらいのクラス会をやっている。大体20数人くらい集まるし先生も必ず出席しワイワイ言いながら旧交を温めている。